



MESSAGE NOTES

先行き不透明な状況を乗り越える

ロイド フラハティ

多くの人が待つことを強いられ、先行きの不透明な状況に立たされています。

1. 信仰と待つということ（ローマ人への手紙 4章19節）

アブラハムは現実と向き合い（認め）、神を信じることを選びました。

「自分のからだですでに死んだも同然であることを認めても、その信仰は弱まりませんでした。」

よく私たちは、万事うまく行っているようなふりをしようとします。このように現実を否定することは私たちが問題を乗り越える役には立ちません。

2. 信仰とは、全てのことが大丈夫になるということではなく、状況がどう変化しても「大丈夫」と言えることである。

詩篇 37 篇 7 節

主の前に静まり耐え忍んで主を待て。その道が栄えている者や悪意を遂げようとする者に腹を立てるな。

3. 神様がくださる平安

人生を1日ずつとらえて、一步一步、神様の平安の中で生きましょう。

ピリピ人への手紙 4章6～8節

6何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。7そうすれば、すべての理解を超えた神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。8最後に、兄弟たち。すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて愛すべきこと、すべて評判の良いことに、また、何か徳とされることや称賛に値することがあれば、そのようなことに心を留めなさい。

まとめ

予測できない状況に飲み込まれそうになっていませんか？平安を失ってしまったような気持ちになっていませんか？

そんな時は、ピリピ人への手紙 4章6～8節に書かれている約束に焦点を置きましょう。この句を暗唱してみてください。自分の心と頭にこのみ言葉を蓄えましょう。神様の平安にあなたの心と頭を守ってもらいましょう。---アーメン